



立教小学校

学校案内

2027



愛の教育

神さまから与えられた命

信じること

一人ひとりの命は、神さまによって与えられたかけがえのない尊いものです。

一人ひとりのお子様は、この世界に新しい光をともし特別な使命を神さまから賜っています。

育てること

友に手をさしのべる行動力、支え合いながら新たな世界を切り開く創造性を大切に育てています。

見守ること

時間をかけて温かく見守ります。一人ひとりの多様性にこそ価値があるからです。

ごあいさつ	2
神さまによるこぼれる子ども	3
立教学院一貫連携教育、立教の歴史	5

学び愛

支え愛

教室での主役は児童たち

手をさしのべる行動力

学び愛	7
学び合う・高め合う 国語科、英語科、算数科、社会科、理科	9
体育科、音楽科、図工科、家庭科、 生活・総合科	11
一歩先をめざすメディア教育 情報科	13
立教小学校が長年続けていること 読書科、日記、縦割り活動、 カレンダー、給食、制服	15

支え愛	17
立教小学校の主な行事	19
校外の活動	21
クラブ活動、児童会活動、学級会活動、聖歌隊、 その他、立教小新校舎建設計画	23
校内の安全、ICタグ、路線別グループ、 在校生の数、PTA・育成会	25
入試要項(概要)、入学後の諸経費、学校公開行事、 学校の生活時程、立教小学校 教職員構成	26

キリスト教信仰に基づく人間教育

立教小学校は1948年に設立されて以来、キリスト教信仰に基づく人間教育をおこなってきました。一人ひとりの命は神さまからいただいたかけがえのない尊いもの、すべてのお子様はこの世界に新しい光をともし、一人ひとり特別な使命を神さまからいただいている、という信仰を教育の土台においてきました。この6年間の立教小学校における経験が、中学校、高校、大学における学びの堅固な礎となるように、常に改善を図りつつ歩んできました。

現在、本校では建学の精神を堅持し、以下の4つの目標を掲げて教育活動を進めています。

- ① 友だちのよいところがわかる子ども
- ② 自分のよいところを表現できる子ども
- ③ 広い視野でものを見られる子ども
- ④ すべてに感謝できる子ども

一貫連携教育

本校はこうして神と人々のために建てられた立教学院の建学の精神と教育理念に基づく一貫連携教育における入門期の役割を果たしています。中でも小学校が特に大切にしていることは「共に聴き合い、高め合い、学び合う学び舎を創造する。」ということです。

感性豊かな児童期に本校独自の特色のある豊富な校外活動、学年の枠を超えた縦割りグループでの活動、キャンプによる共同生活などが用意されています。これらの活動を通して本校の児童は一人ひとりに与えられている神さまからの賜物を尊重し合い、互いに助け合い、共に生きる喜びを分かち合っています。様々な経験を共有することにより、一人ひとりのつながりが強固になり、生涯続く友人関係へと進んでいきます。また、豊富な経験は学びの世界を広げ、深めるための確かな基盤となっていきます。

「わからない」が言える授業

本校の学びは、暗記と再生の正確さや速さを競う勉強、知識の詰め込みからの転換を図っています。

子どもの興味関心を重視し、教師も子どもも互いに学び合いながら、100点満点をゴールとせず、その先を探求する学びを目指しています。「わからない」が言える授業、「できる」「分かる」「使える・役立つ」という学びの段階に応じ、子どもたち一人ひとりの創造的な思考に価値を見出す授業づくりを目指して、日々創意工夫を重ねています。

「非認知能力」の重要性

本校が設立当時から大切にしてきた日記や野外活動、縦割りの教育が、いわゆる「非認知能力」を高めるためにどれほど役立っていたのかが、コロナ禍を通してはっきりと見えてきました。今後、オンラインでできること、できないことを明確にし、学校生活の中に、子どもたちの自己肯定感が増すような活動・行事を意図的、意識的に取り入れていきます。

新校舎建設に関わる諸行事を「非認知能力」の育成の絶好のチャンスととらえ、児童の積極的な参画の機会を増やしつつ、目白校舎での生活を続けてまいりました。私共にとって人生に一度有るか無いかの新校舎建設。子どもたちも教職員も工事に携わってくださる方々の健康と安全を毎日祈り続け、お陰様で新校舎は7月に竣工の運びとなりました。2026年9月より待ちに待った新校舎での生活が始まります。

皆様方のご息をお迎えするのは2027年4月。その頃には新校舎での生活にも少しずつ慣れ、ゆとりが出てくる頃ではないでしょうか。子どもたちの学びの場であり、遊びの場でもある、ワクワクするような新校舎で、皆様方のご息のご入学を心よりお待ちしております。

校長 田代正行





聖劇
 毎年、クリスマスをして神さまにおささげする劇として2年生が行います。

神さまによろこばれる子ども



チャペルでの礼拝
 毎週金曜日にチャペル礼拝をささげます。(1校時目:高学年、2校時目:低学年)チャペル礼拝では、聖公会の教会暦にしたがった聖書が読まれ、チャプレンのメッセージをききます。



毎朝の朝礼
 毎朝の朝礼は、朝の祈りです。全校で聖歌を歌い、神さまを賛美し、祈りをささげることから立教小学校の一日は始まります。



全校の礼拝
 イースター、収穫感謝、クリスマス、設立記念日などには、全校児童が講堂に集まり、合同で大礼拝をささげます。この礼拝では、大きなプロセッションが組まれ、厳かな雰囲気の中で、保護者も一緒に祈りをささげます。



聖書科の授業
 本校の教育の根底にはキリスト教の精神があります。小さい時から神さまを畏れ、感謝をもって生きる人を育てるということです。聖書科では、日々の授業を通して、その心を養います。実際には毎日過ごす学校生活全体を通して養います。知識というよりも、人としての生き方に大きな影響を与えるものです。特に、聖書から、神さまとはどのような方か、神さまに喜ばれる子どもとは何かを学びます。



2025年度クリスマスカード



立教池袋中学校
男子360名

立教池袋高等学校
男子360名



立教新座中学校
男子600名

立教新座高等学校
男子840名



立教大学
 ■学部
 男女19,990名
 ●池袋キャンパス
 文学部
 経済学部
 経営学部
 理学部
 社会学部
 法学部
 異文化コミュニケーション学部
 Global Liberal Arts Program
 環境学部(2026年4月新設)
 ●新座キャンパス
 観光学部
 コミュニティ福祉学部
 現代心理学部
 スポーツウエルネス学部

立教学院一貫連携教育

教育目標
 テーマをもって真理を探究する力を育てる
 共に生きる力を育てる

小学校から大学、そして大学院まで。立教学院は建学の精神と理念に基づく一貫した連携教育を行うことで、人の生涯の中で大切な人格形成期にあたる20年弱を俯瞰(ふかん)します。立教学院に集う多くの児童・生徒・学生たちは、文字通り「St. Paul'sの名の下に」行われる一貫連携教育により、豊かに、伸びやかに成長していくのです。



立教小学校
 2026年3月卒業生進路先
 立教池袋中学校 56名
 立教新座中学校 59名
 他校 2名

立教の歴史



1874	1896	1899	1907	1918	1923	1948	1949	1960	1962	1966	1974	2000	2024	2026.9
立教学校創立	立教尋常中学校、立教専修学校設立	立教学院成立	立教大学開設	大学池袋移転	中学校(旧制)池袋移転	小学校校舎(旧)落成	小学校校舎(旧)落成	高等学校新座移転 みすず山荘落成	現校舎完成	現校舎完成	現体育館、温水プール完成	新校舎建設のため 代替校舎に移転	新校舎建設のため 代替校舎に移転	新校舎へ 移転
			新制中学校、高等学校発足 立教小学校設立(中学校校舎内)					小学校、現校舎着工	中学校、立教池袋中学校に改称し 高等学校、立教新座高等学校に改称し 中学校を併設					

創立者ウィリアムズ主教来日(1859)
 立教学院の母体となっている聖公会は、英国国教会から生れた教派で、英国の植民地を中心に全世界に広まりました。米国聖公会から日本に派遣されたC. M. ウィリアムズ主教(1829~1910)は、1859(安政6)年に長崎に上陸しました。

“St. Paul's School—立教学校”のはじまり(1874)
 1873(明治6)年、明治政府がキリスト教を解禁するや、師は大阪から東京の築地に移り、翌1874(明治7)年2月に聖書と英語を教える私塾を開きました。これが“St. Paul's School—立教学校”のはじまりです。

立教中学校のはじまり(1896)
 立教は1896(明治29)年の制度改革に際し、立教尋常中学校と立教専修学校を開校しました。前者は、立教としては「学校令」に準拠した最初の学校で、これが立教中学校のはじまりでした。

立教大学の設立(1907)
 立教中学校は年々生徒も増加して隆盛の一途をたどりましたが、第2代総理事タッカーは、立教でつちかった信仰心が進学によって薄れることを嘆き、立教大学を設立しました。1907(明治40)年のことです。
 中・大両校を収容するには築地キャンパスが狭くなったので、1918(大正7)年に大学は池

袋に移転し、1922(大正11)年には念願の「大学令による大学」に昇格しました。
立教小学校設立の意味(1948)
 1945(昭和20)年の敗戦により、キリスト教学校は、明治以来半世紀にわたる圧迫と規制から解放されました。立教大学の新任校長となった佐々木順三は、日本が民主主義の道を歩むには幼児のころからキリスト教教育が必要であると考えて小学校設立を指示、有賀千代吉主事(後、第三代校長)のもと、1948(昭和23)年に立教小学校が開校されました。

「一貫連携教育」—21世紀を迎えて
 立教学院では、小・中・高・大の一貫教育体制が始まってからちょうど50年後の1998年、21世紀に向けての立教学院独自の教育を実現するために、一貫教育のさらなる充実をはかった「一貫連携教育」構想を打ち出しました。この構想に沿う形で、2000年に立教中学校が高校を、立教高等学校が中学を開校し、それぞれが中高一貫の立教池袋中学校・高等学校、立教新座中学校・高等学校として生まれ変わりました。
 立教学院はウィリアムズ主教が築地に小さな立教学校を開いてから、2027年で153年目を迎えます。

学び愛

教室での主役は児童たちです。



全世界で学習観の改革が進んでいます。

従来型の競争の学びでは、持続的、創造的な学びは行き詰まってしまう、真理の価値や喜びを見いだせなくなってしまう。今、世界中の学校が静かに変わり始めています。

教室で語る主人公は、教える教師から、学ぶ児童たちに移ってきました。教室の主人公が、わかる子から、まだわからない子に変化してきました。

「わからない」ことから学びは始まります。



学生アシスタント

子ども一人ひとりの理解力を高めるために、立教大学の学生が、学生アシスタントとして授業をサポートしています。



体育授業助手

水泳および球技スポーツを中心とした体育授業では、レベルに応じたきめ細かい指導のため、連携教育の特徴を十分に生かし、立教大学運動部の学生に助手を依頼しています。



特別授業

立教学院理科研究会、立教学院算数・数学ワーキンググループによる出張授業の一環として、立教新座中高の理科教員、立教池袋中高の数学教員による高学年児童を対象とした特別授業が行われています。

学び合う・高め合う

言葉は学び合うすべての学習の土台です。

・言葉によって、神さまのなされたことが伝えられ、神さまへの感謝の心が育ちます。

・言葉によって、人は支えられ、慰められ、前進する勇気が与えられます。

そのため、聴くこと、話すこと、読むこと、書くことをすべての学びの中心ととらえ、丁寧な指導をします。

知的発達のための言葉、文字、数の理解などに関しては、一人ひとりの学習状況を確認しながら指導します。

学び合うつながりを大切に、一人ひとりの学習意欲を引き出す指導を心がけます。

知っている、覚えている知識量の多い少ないを問う、閉じられた学びではなく、学びから新たな問いが生まれ、新たな探究が始まる開かれた学びにつながる指導を目指します。



国語科



子ども時代に、美しいものや尊いものに心を動かされることは、とても大切です。そのため、私たちは伝達手段としてのことばの環境をいつも豊かにしておくことを心がけています。

日記や作文や習字で、さらに朗読や劇活動を通して自分を表現するのも、ことわざや漢字を学び読書するのも、人と人がことばと心を通わせ合い、うるおいのある人間関係を育てるためなのです。こうした国語教育が、平和な社会の形成につながると確信しています。

英語科

**自分を受け入れる。友達を尊重する。
共に生きる心をはぐくみます。**

立教学院一貫連携英語教育はここからスタートします。「オーセンティック」にこだわった歌と絵本を中心とした教材が、授業の楽しい思い出と共に心に残ります。

- ① 英語をよく聞いて、自ら発話しようとする態度
- ② 英語特有のリズム・イントネーション
- ③ 豊かな語彙・表現力、基本的な読み書きの力
- ④ 異文化への理解・関心・対応力

ETM(Education Through Music)

英語圏の言語・文化を背景とする150曲あまりのわらべ歌の意味を体感する「遊び」を通し、思考のための美的な基盤が築かれます。英語の音に慣れ親しむとともに、自律性・協調性・創造性なども、子どもたちから引き出されます。

発信型の英語

英語をたくさん聞いて理解し、表現を覚える。それは、自分の意見を持ち、それを自分なりに表現し、異なるものに心を開き、話し合い、互いに理解し合うためです。



算数科



算数というのは、計算や図形を勉強するためだけにあるものではありません。古代エジプトから美の追求とともに、その原因を追い求め、それらを合理的に伝えるためのコミュニケーションを追求してきたものとも言えます。現代の情報社会では、論理的思考および情報処理能力の育成が必要になってきます。算数は、問題を一つの側面からのみ考えずに、多方向から考えながら、そこで得られた情報を有機的につなげる能力を高める教科といえます。「神さまのお造りになった自然の美しさを知るとともに、物事を筋道立てて考えられるようになること」を算数科の目標に置きながら、知識偏重でなく、子どもの個々の経験を積み重ねながら、直感力に磨きををかけていく教育を目指しています。

社会科



神さまがつくられた人間の集合体といえる社会や自然とのかかわりを学ぶ中で、「神さまに喜ばれる社会を作り出す担い手」を育てることが目標です。そのためには、「疑問をもち、情報を的確に収集し、問題を解決するための自分の考え、行動する力」が必要です。そのような力を身につけるために、多様な情報、見学や取材からの発見をまとめ、発表し、話し合いを通して自分の考えを深めるといった活動を重視しています。

理科



本校の理科の特色は、キリスト教的「自然観」を学び、理科工作を通して、具体的な理解を深めることにあります。3年生以上、週3時間ある授業で、理科はおもしろいということを経験させます。例えば3年生からアルコールランプを使った実験の方法を学び、4年生では分子運動論を導入したものの見方、考え方を養います。高学年になるに従って実験を安全に的確に進める技能を高め、ノートや実験レポートを正確に書く能力を身につけます。





体育科

教員の力は小さいものです。各種目でその道を目指した方に指導していただけるチャンスがあるならば、その方々にご協力いただき、子どもたちに還元したいと考えています。

水泳の授業には立教大学水泳部の学生が、スナッグゴルフにはゴルフ部が、フラッグフットボールにはアメリカンフットボール部が、サッカーにはサッカー部が手伝いに来てくれており、OB・保護者の手伝いも得て、一貫連携教育を基盤とした体育授業が展開されています。

体育授業の中で大切にしているのは、良い雰囲気作りです。誰にでもできる事とできない事がある。できる者ができない者をカバーし、ミスをした時、ドンマイの声がかかる雰囲気。苦手な者も、できるだけのをやってみようという雰囲気。

クラスの中に体育が得意な者と不得意な者がおり、一人一人がどう動き、どういう声かけをすれば良い雰囲気が生まれるのかを感じ、考えさせる授業を目指しています。

社会生活は、「勝ちもあり負けもあり」が基本です。それをわきまえた上で、他を認める心、ひいては、人間社会だけではなく地球全体に目を向ける心を育てる事が目標です。そして、なぜこの世に私たちが遣わされたのか、神さまから何を期待されているのか、体育活動が少しでもその意味を考える場になればと願っています。



着衣水泳

音楽科



リコーダーや邦楽器などによる合奏、童歌による遊びやリズム、和音の教育に力を入れています。そして何よりも、キリスト教の信仰に基づく本校の音楽にとって大切なことは、「神さまを賛美する」心を養うことです。チャペルで行われる礼拝では聖歌と祈りが歌われ、音楽科では、聖歌を歌うことにより、音を聴き、言葉を聴く耳とともに、「神さまの言葉を聴く心」を培うことを目標の一つにしています。

図工科



美しい色、楽しい工夫。図工科では感動を自由に色や形に表現することの喜びを一番大切にしています。絵画、版画、彫塑、工作、デザイン等、多くの分野の表現ができるように設備も本焼きのできる電気窯をはじめ木工具、プレス機等充実させています。子どもたちの大好きな時間の一つであってほしいと願っています。

家庭科



4年 防災食を学ぶ(家庭科)



2年 ミートソースを調理する(生活科)

家庭科は、自身の生活に足場を置いて家庭や自分とつながる社会を見つめ、どのように生きるかを考える場となります。衣食住に関する実践的な活動を通して、人の日常生活に欠かすことのできない基礎的な知識・技能を習得していきます。今の生活から「よりよく生きる」ためにどのような道を選び実践するか考えて行動する力を身に付けることができるのが、家庭科の魅力だと考えています。一方、生活・総合科は「自然のものを知り大切にすること」「自分の周りの人が幸せになるようにすること」を学びます。隣接したこの二つの教科は生活に関わる体験、五感、すなわち「味覚」「聴覚」「嗅覚」「視覚」「触覚」の5つの感覚を総動員した学びを重視しています。

生活・総合科



2年 どんぐりでクリスマスツリーを作る(生活科)

通常あまり考えたことはありませんが、私たちの知識はすべてが情報です。「国語」「算数」「理科」などの教科という枠組みは、それらの情報を切り分けた学びです。本校の「情報科」では、すべての教科学習は「情報」の学びであるという視点を持って、従来の固定した枠組を越えた教科横断型の学びを目指します。

この挑戦は、2018年4月のコンピュータ室改修を機に、従来の教室イメージを否定することから本格的に始まりました。

- ・教室の机と椅子を撤去し、ゴロゴロ寝転がって授業を受ける。
- ・机が必要な場合は、教室備品の、盤面を落書き用にしたホワイトボード仕様の机を自分で持ってきて使う。
- ・教材提示は壁を使わず、床にプロジェクターで投影する。

あえて「挑戦」と表現したのは、この一見自由に見える授業は、児童に未経験の「自律」と「協奏」を求めているからです。

教科横断型の学びを目指した「情報科」に決められた枠組みはありません。しかし一方で、学びには具体的な「器」が必要です。

そこで「情報科」では、教科の中で一番具体的な活動を伴う、日々の「生きる」ことに関わる「生活科」「家庭科」に狙いを定め、この二つの教科と連携した授業を試みました。

こうした成果はふつう見えにくいものですが、2020年2月に始まったコロナのパンデミックが、図らずもその成果を確認できる機会となりました。全国の教育現場が混乱するなか、本校が速やかに授業態勢を整えられた背景には、この「情報科」での試行錯誤があったからと本学では考えています。

「情報」で重要なことは、インプットだけでなくアウトプットができることです。このことを強く意識した「情報科」の授業は、連携した「生活科」「家庭科」だけにとどまらず、教科の枠組みを乗り越えて学校全体の運営に大きな影響を及ぼしていたのです。

2026年に完成する新校舎の設計コンセプトには、これまでの情報科の経験を十分生かし、普通教室と専科教室の垣根を取り払い、そこからあふれ出る学び(=情報科)を包み込む場所として「メディアセンター」の設置が予定されています。

情報科30年のあゆみ

- 1994年 4月 コンピュータ室の開設。
- 2001年 4月 「情報科」の開始。
- 2008年 4月 iMacによるコンピュータ室のリニューアル。
- 2013年 4月 校内無線LAN環境の整備。iPadの活用開始。
- 2015年 4月 3、4、6年生の3学年で1人1台のiPadをもった環境が整う。
- 2015年 8月 情報科の石井輝義教諭が、Apple Distinguished Educatorに認定。
- 2016年 11月 Apple Distinguished Program (2016-2018) に認定。
- 2017年 4月 3年生以上の全児童が、「自分のiPad」をもって授業に臨む環境の完成。
- 2018年 4月 コンピュータ室を、椅子と机を廃止した座敷タイプへリニューアル。
- 2020年 5月 新型コロナウイルス感染拡大に伴う長期休校(2月～6月)でオンライン授業開始。
- 2021年 4月 1年生と2年生に1人1台のiPad。



授業の具体例

①ボールの動きをコントロールするプログラミングを学ぶ (2年生)

2年生では、Sphero SPRK+というロボットボールと、iPadを使い、ボールの動きをコントロールするプログラムを学びます。



②家庭科とのコラボレーション(4年生・5年生)

- ・「都道府県の食」をまとめる学習。
- ・裁縫や、さまざまな調理実習を iTunes Uで教材化。
- ・児童自ら給食のメニューを作成する「ベスト給食」(優秀な作品は、実際に給食として提供)。



③自然体験プログラムの体験をまとめる(5年生)

自然体験プログラムのグローバルエクスカージョンを「体験」だけに終わらせず、「知的活動」として位置づけその定着を図っています。



④関西方面フィールドワークの事前学習(6年生)

関西フィールドワークでの訪問先について、各自で事前に学習し、そのデータを4人のグループでまとめていきます。各自での作業は、iPadで操作方法を確認しながら、ノート型のMacBookで行い、グループでの作業は、小型の白板や画面の大きいデスクトップ型のiMac Proを利用するなど、用途に応じて使い分けています。



⑤英語で自己紹介するビデオ・レター作成(英語科)

本校独自の教材を作成し「英語体験」を日常化することに努めています。6年生では、これまでのデジタル機器活用の集大成として、英語で自己紹介をするビデオ・レター作成による発信型の英語教育を実現しています。



4年生の学習発表会

- 東京都に関する学習の発表。
- 単に発表するだけでなく、「食」による学びを追加することで生活実感のある学びを形成。
- 東京都の「食」として有名な「雷おこし」を調理。
- 学習発表会当日に、保護者にお土産としてプレゼント。
- 「食」を通じて東京都の学習を保護者と共有。
- 机上空論的な学びから脱却し、生活実感のある学びを実現。



雷おこしを作成中



雷おこしを切断中



雷おこし用の水あめを混ぜている様子

5年生の学習発表会

- グローバルエクスカージョンの発表。
- 従来のポスターセッションに追加して、「食」を通じた体験の共有を実践。
- 北海道・小笠原・四万十川・沖縄(伊平屋島)・屋久島の5つのコースで、それぞれのコースで特徴的な「食」を調理実習として展開。



クリーミーレモン作り



校長によるカツオのたたき

立教小学校が長年続けていること

読書科



朝読書



低学年から読書が日常的な習慣として定着します。

「読書」の授業では、たくさんの物語を聞きます。物語をシャワーのように浴びることにより、知的好奇心や語彙力が広がり、豊かな言語感覚、想像力が身につきます。また、週1回、定期的に本を借りることで、読書が習慣化されるよう、取り組んでいます。

HON.YOMO よむよむよ

読書科で厳選した400冊以上のおすすめの本をリストアップした冊子、「HON.YOMO よむよむよ」は、子どもたちが、多くの本とであう機会をつくり上げています。また、この冊子では、自らの読書記録をつけ、感想を書いていきます。本を読み、感想を書くことによって、考えをまとめる力が身につきます。



旧江戸川乱歩邸見学



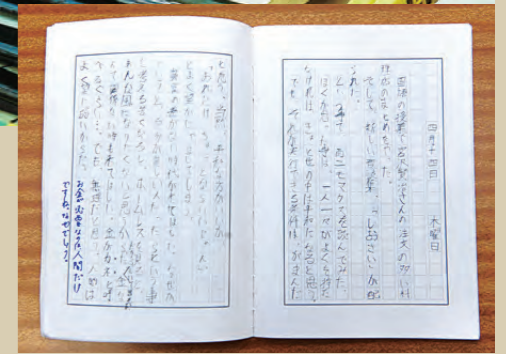
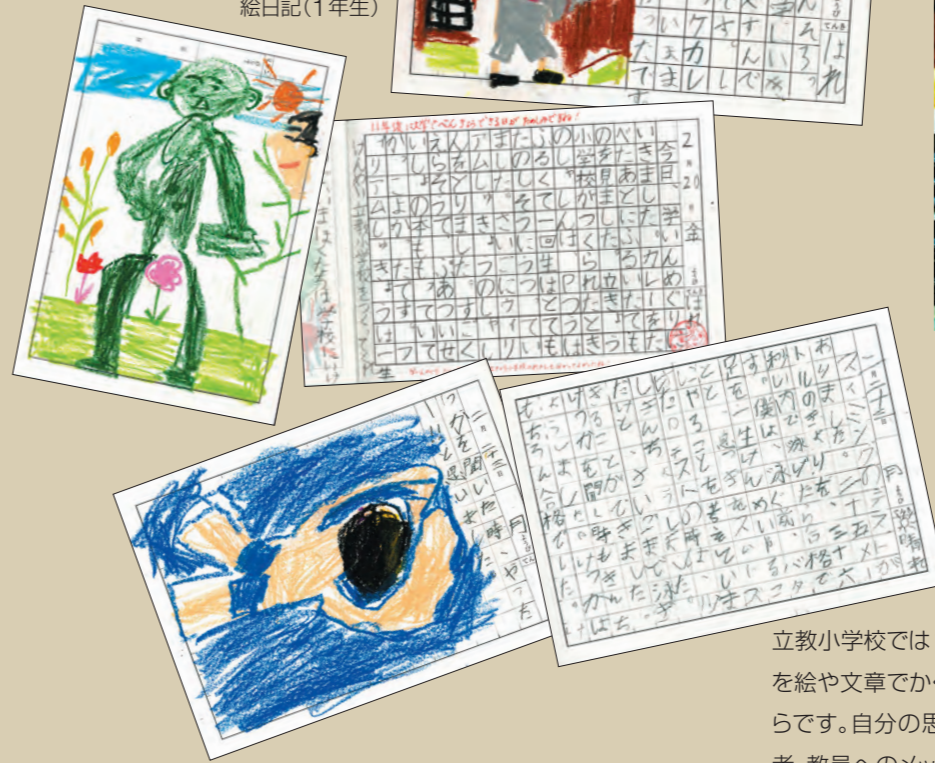
カレンダー

立教小学校では、毎年、同じ聖公会に属する立教女学院小学校、聖ステパノ学園小学校と共同で、聖書のお話を題材にした図工の作品を出し合ったカレンダーを制作しています。この伝統は、もう半世紀以上も続いています。



日記

絵日記(1年生)



文章のみの日記(高学年)

立教小学校では1年生から絵日記が始まります。一日を振り返り、それを絵や文章でかくことによって、確実に表現力や言葉の力が高まるからです。自分の思いや考えを絵や文章にすることは、子どもから保護者・教員へのメッセージとなります。

日記はコミュニケーションの大切な手段となってもいるのです。



縦割り活動

1年生から6年生の縦割りグループで朝礼(月・火)、給食(火・水・木)を共にします。また、2・3・4年生による縦割りキャンプも行っています。

給食

立教小学校給食室では、成長期のお子様へ安全な給食をご提供できるように日頃から創意工夫しています。コンセプトとして「素材の味を活かした調理法をする」「和食の日や郷土料理を通して、日本の食文化に触れる」「季節の食材を使用し、旬を感じてもらう」という3つの柱をもっています。



制服

立教小学校の制服は、1948年の学校設立と前後して決定されました。1回生から変わらず同じ制服を着ています。終戦後間もない時代に、金色の百合のマークが入った帽子とランドセル。グレーのダブルの半ズボンのスーツ、赤いネクタイ姿の小学生がどれほど新鮮であったか想像してみてください。そしてさらに驚くべきことは、70年を経過した現在において、その新鮮さがまったく失われていないということです。

それはまさに、立教の教育の象徴であり、わたしたちは誇りをもって制服を守り続けています。

季節	秋→春(10月~4月)	夏(5月~9月)
帽子	黒の制帽	白のピケ帽
上	ワイシャツ えんじネクタイ グレーダブル上着 バッジ	半袖ワイシャツ バッジ (寒い日は紺色のセーター かベスト着用可)
下	グレー半ズボン	グレー半ズボン
靴下	紺または黒のソックスかハイソックス	
靴	黒の革または類似の短靴	

支え愛

手をさしのべる行動力を養います。



友との「協奏」は、助けを必要とする者に手をさしのべる行動力、
協同して困難を乗り越える忍耐力、
支え合いながら新たな世界を切り開く創造力を育てます。
そして行事や日々の学校生活の中で、一人ひとりの感動や理解を共有することにより、
「競争」の学びから「協奏」の学びへの転換を図ります。

立教学院みすず山荘

7月には1年生から4年生までの児童を対象に軽井沢に所有する小学校専用キャンプ場で、1年生キャンプ、2年生から4年生の縦割りキャンプを行います。





運動会

A・B・Cの3クラス対抗で行います。
毎年、子どもたちの元気な声が校庭に響きわたります。

(立教新座中学校・高等学校グラウンド)

立教小学校の主な行事 (2025年度参考)

- | | | |
|---|---|--|
| 4月 入学礼拝
1学期始業礼拝
前期児童会代表委員任命式
健康診断
イースター礼拝(お花届け)
4年生 消防車写生会
1~4・6年生 遠足 | 7・8月 5年生 グローバルエクスカージョン
4・6年生 立教英国学院サマープログラム(希望者)
9月 2学期始業礼拝
後期児童会代表委員任命式
1・2年生 秋の遠足
6年生 関西方面フィールドワーク | 1月 3学期始業礼拝
耐寒マラソン
なわとび
聖パウロ回心日
立教小学校設立記念礼拝
4年生 スケート教室 |
| 5月 5・6年生 東京六大学野球応援
立教女学院との合同プレーデー | 10月 5年生 稲刈り
運動会
ブックフェア | 2月 4年生 ドッジボール・ドッジビー大会
5年生 フラッグ・フットボール
1年生 生活科立教学院めぐり |
| 6月 5年生 田植え
全校観劇会
5・6年生 バasketボール大会 | 11月 学習発表会
クリスマスの飾り付け
収穫感謝礼拝
イルミネーション点灯式 | 3月 お別れ会
3学期終業礼拝
卒業礼拝・祝賀会 |
| 7月 1学期終業礼拝
1・6年生 キャンプ
2~4年生 縦割りキャンプ | 12月 5年生 餅つき
2学期終業礼拝
クリスマス礼拝・祝会
5・6年生 スポーツ大会 | |

(紫文字は校外行事)

プレーデー



立教女学院との交流を深める意味で毎年5月に行われる合同運動会です。毎年交互に両校のグラウンドを会場として使っています。

なわとび



全学年を対象とした「なわとび」を3学期に行っています。

餅つき



5年生家庭科「お米に関する学習」の集大成としてお餅つきを12月に実施しています。

ブックフェア



校内読書週間の企画として、「子どもと本の幸せなであい」をテーマに、本の展示販売会「ブック・フェア」を10月に開催しています。

耐寒マラソン



冬季に、全学年が約1か月間、朝7時50分から始業まで、マラソンコースで耐寒マラソンが行われます。

校外の活動

グローバルエクサージョン

「地球に目を向けた教育」を体験させたいという思いから、5年生の国内コース別選択の総合体験学習です。自分の身体を動かし、五感を使い、判断し行動するところに学習のねらいがあります。

2025年度実施コース:四万十川、小笠原、北海道、屋久島、沖縄



復興交流活動



「ぼくたちにできること」を考え行動することで、東北地域の幼稚園・小中学校との交流も生まれています。(被災された学校へお届けするクリスマスカード作り)

田植えと稲刈り



学校契約の田んぼへ出かけ、5年生が春に田植え、秋に稲刈り体験と精米作業見学を行います。

立教学院めぐり



1年生を対象に立教大学のチャペル・図書館・食堂を訪問し、立教小学校が立教学院の枝に連なる学校であることを学びます。

東京六大学野球応援



毎年、明治神宮野球場にて開催されている春の東京六大学野球リーグ戦を5・6年生全員で観戦し、立教大学野球部を応援します。

立教学院 一貫連携 清里環境ボランティアキャンプ



立教学院の児童・生徒・学生・教職員が清里の地に集い、ボランティア活動を行うキャンプです。

遠足



野山や海などの自然に親しむことを目的とし、春は1～4・6年生、秋は1、2年生が遠足にでかけます。

関西方面フィールドワーク



「歴史から歴史学へ」をテーマとし、見学地においてiPad等を利用し取材内容を記録し、「フィールドからの学び」を体験します。

立教英国学院 サマープログラム/1年間留学プログラム



8月に4・6年生児童(希望者)を対象にイギリスにある立教英国学院での寮生活による1週間のサマープログラムを実施します。また、2017年度より5年生児童(希望者)を対象とした立教英国学院小学部への1年間の留学プログラムがスタートしました。

クラブ活動



5・6年生は全員、クラブ活動に参加します。クラブは、運動系と文化系があり、それぞれ放課後を利用して、週に1～2回の活動を行っています。教室での学習では得られないものを追求します。

運動系

サッカー 水泳
体操競技 卓球
テニス バスケットボール
野球 シーズンスポーツ
ドッジボール
バラスポーツ

文化系

将棋 読書クラブ 折り紙研究会
演劇 科学 模型クラブ
コンピュータークラブ
算数パズル・ゲーム
鉄道研究 立教ジャーナル
「つくる」クラブ 彫刻クラブ



児童会活動

児童が直接、学校運営に接しその向上を自覚する機関として児童会があります。

各委員会の代表者を通して、全校児童の希望や考えを発表しあい、学校生活が有意義にすごせるよう、問題点の解決に努力します。

最近の活動としては、災害にあった方々のための募金活動、学校のきまりをみんなで守るためのポスター作り、あいさつ運動、施設の子もたちとクリスマスカード交流などを行っています。

他にキリスト教委員会、生活委員会、新聞委員会、放送委員会、図書委員会、保健体育委員会、美化委員会があります。



放送委員会

聖歌隊



礼拝のときにチャペルや講堂の前列で聖歌を歌います。聖歌隊のつとめは、心を神さまに向け、奉仕の心で歌い祈ることです。

学級会活動

話し合い活動を通して問題を解決したり、学級独自の行事等を作り上げたりしながら、自主的、実践的な態度の育成を図ります。すべての児童が互いの意見を尊重し合い、安心して学び合い、高め合っていく学級を目指しています。



その他



スナッグゴルフ

2002年から毎年1学期に5年生を対象としたスナッグゴルフ授業を立教大学ゴルフ部監督を始め、OB・保護者・ゴルフ部員の協力を得て実施しています。



フラッグ・フットボール

2000年から毎年3学期に3～6年生を対象としたフラッグ・フットボールの授業を立教大学アメリカンフットボール部の協力を得て実施しています。

立教小学校新校舎建設計画

本校の“新しい教育活動”を展開するため、立教学院創立150周年記念事業の一環として、新校舎を建設いたします。新教育のコンセプトは「自律・協奏する力と心を育む真正(しんせい)な学びプロジェクト型学習を中心とした終わらない学びへー」です。教室での座学中心の学びから、さまざまな人数・形態での学びが教室から溢れ出すような、学校全体が学び場であり遊び場となる新校舎に生まれ変わります。

1. 建設工事期間(予定): 2024年4月～2026年7月
※建設期間中は、西武池袋線「椎名町駅」からほど近い、旧真和中学校に一時移転し、学校教育活動を行っています。
2. 竣工: 2026年7月 利用開始: 2026年9月(予定)
3. 建築面積(延床面積): 約9,280平方メートル
※チャペルや講堂がある東棟は、取り壊さずに改修・改装します。その他の建物(教室棟・芸術棟、体育館、室内プール)は全て取り壊し、新校舎を建設します。
4. 事業費(総額): 約97億円
5. 設計: (株)石本建築事務所
6. 施工: 北野建設(株)



設計・監理: (株)石本建築事務所

北側外観(イメージ)



設計・監理: (株)石本建築事務所

南側外観(イメージ)



立教小学校

〒171-0031 東京都豊島区目白5-24-12 TEL 03-3985-2728 <https://prim.rikkyo.ac.jp>
〒171-0021 東京都豊島区西池袋3-36-26 (2026年9月移転予定)

- ・西武池袋線
「椎名町駅」から徒歩3分
- ・東京メトロ有楽町線、副都心線
「要町駅」から徒歩14分
- ・国際興業バス
「池袋駅西口」～「椎名町駅南口」 乗車10分、徒歩3分
- ・都営／西武バス
「目白駅前」～「目白五丁目」 乗車4分、徒歩8分

